

### 研修テーマ

## 支部の現状と組織の拡大

日時 / 7月3日(金) 13:00 ~

場所 / 天神センタービル 4階第2会議室



平成27年度 研修会

7月3日(金)に行われた研修会では、研修部長の八木治海氏の司会により開会いたしました。

### 【第1部】 4支部からの報告

#### ①糟屋支部 恵良 周司支部長

#### 「支部の現状と課題」

最大の事業は5月の総会である。10班が主体的に活動する。組織拡大のポイントは①多様性への配慮②班長が発言しやすい雰囲気づくり③役員、班長の負担軽減である。組織は大きさではなく堅実さである。

#### ②鞍手支部

#### 武谷 保正支部長

#### 「組織維持の難しさ」

退職直後から16年間、町議を務めた。退職前に先輩から退公連の加入勧誘があり入会。その後、県立高校の校長が入会する。私が所属する古月班は、高齢、病人、認知症で苦しい。鞍手班の人選で支部長に就任。

#### ③大牟田支部

#### 永井 暢一支部長

#### 「独自の支部活動」

支部独自で事務局長次長(再就職で市役所に就職)を配置し、

### 【第2部】

#### これからの年金について

#### 福岡県退職公務員連盟

#### 会長 吉田 筑三

追加費用が減額されたため、地方公務員は昭和37年以前に在職された方は27%減額された。平成11年~13年の間、

### 【第3部】

#### 社会貢献活動に身をおいてー私の生き

#### ざまー日本人としての生き方ー

#### 八女支部長 樋口 順一郎

「特技」柔道2段、剣道5段、日本語教師資格認定、中国語、韓国語、  
「ゴールドマスタースイマー」を認定

NHKが「私の生き方」について30分番組で全国放映。退職後、ベトナム視察団の団長として現地に視察。現在、

事務全般を任せている。役員6名、班長26名。班長は会員に常に連絡をとる。敬老行事は支部独自で90歳、80歳の表彰を文化会館で行う。

#### ④小倉支部 西岡 幸則組織部長

#### 「支部の現状と拡大の困難さ」

5月に役員、班長総会を開く。小倉北区115名を17班、小倉南区233名を23班として組織。9月には敬老会、会員の集いを開催。寿詞、記念品の伝達贈呈。指揮者を依頼して全員で合唱。2月は懇親会。

物価は2.5%下がった。年金も下がるはずであったが、特例法により据え置かれた。そこで平成25年10月から2.5%を返納するために減額された(本来水準)。日公連・退公連では、デフレ下にあつては年金の減額は許されないと強く主張している。

無農薬農業を実施しているの、各方面からの訪問を受けている。

人間社会には、自由と責任があり、権利と義務が生じる。私は、社会貢献活動⇨ボランティアとは、責任と義務を重んじる利他的なスタンスであると思う。

自由と権利は、利己的なスタンスであると思う。日本人の生き方は、利他的である。私は退公連をボランティア団体と思っている。常に人のために活動している団体であるからである。

組織拡大については、1月には小中校長へ退公連加入案内の文書配布、4月に退職者一覧表を作成。以後、勧誘活動。会費が2000円で財政は困難。

#### ⑤まとめ 松田 博直県連組織部長

#### 「組織拡大の大切さ」

まず、人間関係を樹立することが大切である。新聞配達等を通して絆を深めてはどうか。退会者を出さないという気持ちを持って強く持つこと。

朝倉支部



朝倉支部 支部長 東野 博文

今こそ、ガンバロー!!

平成27年度は異常な天候・災害の多い年であった。そのせいか最近では好天気に恵まれ、稲の刈り入れも順調に終わり、美りも豊かである。世の中はうまくできているもので、昔の裏には楽ありきである。退公連新聞の一面に朗報「久しぶりに年金アップ」とあり一瞬首をひねった。確かにわず

かつて匿名活動をしていたことを見落としてはならない。本部の働きで、本年は0.9%の減額にとどまることのできたものと思う。我々の生活の基盤は年金によって成り立っている。このことをあらためてハッキリと自覚しよう。社会保障制度改革国民会議も、マクロ経済ではデフレ時は減額をしないことを力説している。年金情勢は今後さらに厳しくなる。それ故に、会員が減少するのである。もう一つは、長寿社会の上層部が膨らんできている現実。

このことを考えると国民会議へ依存をしていると年金調整は、さらに減額の一途をたどる結果を招きかねない。年金生活に依存している我々退公連の絆を強くして生活の安定保障ができるようにその対策を考えなければならぬ。朝倉地区では11月5日(木)にグラウンド・ゴルフ大会を開催し、会員増を図るとともに会員同士、絆を強くするために大会を盛り上げることにしている。全会員腕を奮って参加されることを期待している。

小倉支部



小倉支部 支部長 岩谷 武利

絆を第一に活動を推奨

楽しく、生きがいのある退公連小倉支部を目指して、次のような取り組みをしている。  
◇4月の拡大理事会(25名前後)で前年度の反省と新年度の方向付けを行う  
◇5月の役員・班長総会で方針決定  
◇理事会(拡大理事会を含む)で実践内容の具体化や反省点の洗い出し  
◇組織強化委員会の常設(各理事会の中で必ず進捗状況の把握)  
◇新聞や会報等の配布(郵送料の高騰等で6回から4回に縮小)  
◇支部だよりの発行(6回)  
◇2月には懇親会で一層の絆づくり

城南区支部



城南区支部 事務局長 塩原 義允

研修計画の作成

城南区支部では毎年、半日研修と1日研修を実施しています。半日研修は室内でゆつくりとくつろぎ、おしゃべりを楽しむのが主な目的です。毎年、友泉亭公園の一部屋を予約し、庭園を眺め、抹茶もいただきながら...もちろんお弁当も食べ、童謡など昔の懐かしい歌をう

たつて楽しいひと時を過ごします。半日研修を同じ場所です。半日研修を同じ場所は、歩きまわるのが少々辛くなったといわれる方でも参加できるのではないかと考え続けています。友泉亭公園は参加者にも好評なのですが、大河ドラマ「黒田官兵衛」の影響で観光客が増え、部屋の予約が取りにくくなって困っています。もう一つは1日研修です。この目的地を探すのに苦労しています。朝10時頃から午後3時頃までの間に適度に見て回り、おいしいものを食べ、少々飲むこと。この3つの条件に当てはまる場所は、福岡市でも簡単には見つかりません。でもこの条件はなかなか捨て難いものですね。昨年は那珂川のクルージングでベイサイドの農園レストランへ。一昨年は明太子工場を見学。その前は紅葉の太宰府散策と食事処。今年は何となく、班長会で尋ねてみると「オー

プリントアップバス」の話が出ました。また誰も乗ったことがない。市内見学を約1時間、出発点に戻れば、市役所横の広場で「九州うまかもん市」が開かれています。飲む、食べることもできます。今年はこれに決めました。城南区支部の2つの研修は、参加者には好評です。計画するのは一寸大変ですが、うまくバランスが取れた研修になっているのではと思っています。来年はどんな計画にしようかな? 鬼に笑われないように計画しよう!

行橋京都支部



行橋京都支部 事務局長 森下 弘明

会員数の増強をめざして

平成23年5月より事務局長を務めてきた。平成17年度の会員は215名という記録があるが現在は100名に減少。10年間で半減したことになる。5年前の地域全体の退会が減少を早めた。現在も減少の



女性部 若松支部



若松支部 女性部長 渡邊 富美子

私にできること

「女性部長として何をやるか、何ができるか」自問。人員を増やすとか、年金がどうのとか、役からしたら大切だろう。

しかし、新しい会員を増やすことは、現状では難しい。ならば自分がこの役を通して、会員にどう関わることが重要であり、私にできることではないか。

会員同士が楽しく過ごせるよう、皆に会いたいと思ってもらえるようにすることこそ、私にできること



とだと思ふ。

10月23日に、本支部では、年1回の日帰り旅行に出かけた。若松から直方へのバス旅行。いくつになっても、私たちは勉強が好きらしい。近い場所ではあるが、初めて知ったことはたくさんあった。林芙美子さんの記念碑がある西徳寺で和尚様からの話。「旅行が楽しいのはなぜか。それは帰るところがあるからだ」と。林芙美子さんの帰るところは木賃宿で、一生決まったふるりの家を持たなかった...

私たちには帰るところがあり、仲間がいて、小さいながらふれあいがある。バス旅行もその一つ。この日は94歳まで、お元気な19名の会員が集った。皆さん、体も元気ですが、お口もなめらか。行くところ行くところ、感動が飛び交って思考も順調。

中央区支部



中央区支部 事務局長 柴田 茂行

会員の結束と組織拡大

福岡市の中央区は、商業地域という立地条件から、公務員の在住が少なく、また、会員は高齢化が進み、年々減少の一途をたどり、現在の会員数はわずか40名である。

このような実情から当支部の課題は「会員の絆を深め結束すること」「組織拡大に取り組み」ことである。そのために取り組んでいるのが、

1 魅力ある

総会にすること 1人でも多くの会員に参加してもらうため、3年前から福岡市役所の「出前講座」を活用し、

計画した役員に感謝の言葉で旅行を終えた。今度は新年会で会おうと約束。68歳はこの中では、子どもなんです。楽しい支部になれば、自ずと人は集まる。発信だけはしていこう。 たまに集まることは楽しいよって！

講師による具体的で身近な問題をテーマに講話をしてもうっている。

◇平成25年「養護老人ホームなどの高齢者施設」

◇平成26年「要支援高齢者に対する福祉サービス」

◇平成27年「悪質商法の手口と対処法」

講話の後の質疑応答も活発で、毎年続けて欲しいという声が多く、大変好評である。

2 組織拡大の取り組み

新規退職者には加入してもらうため、次の3つのアプローチで勧誘している。

①退公連へのお誘いのプリント、新聞、会報等の資料を当人に送付

②電話で魅力ある退公連をPR

③本人に直接会って話を

する 毎年2〜3名は確実に加入しているが増加には至っていない。教職員以外の職種にどうコンタクトを取るかが今後の大きな課題である。

参加報告

日本退職公務員連盟 平成27年度 全国大会 組織率高め、豊かな社会つくろう

東区支部 支部長 中嶋 英機

傾向は変わらない。各13地区で班長を決め、隔月ごとに班会、総会を開催し親睦を深めるとともに当面の課題である会員増について協議をしている。

①本支部には退職校長会と退公連の組織があり、大半は両組織に加入しているが、退職校長会には加入し、本会に未加入の会員には手紙等で退公連の意義を知ら

せ勧誘している。 ②退職する校長を訪問し入会の勧誘をする。 ③退公連の意義を理解しても支部の一般会員にはメリットを感じてもらえない。所属感を強める行事を計画中等の活動を考えているが、まず会員の体力、趣味、興味の調査に着手している。

10月21日(水)、東京都千代田区の日比谷公会堂で開催された「日本退職公務員連盟」全国大会に初めて参加しました。来賓代表としてあいさつされた自

民党の谷垣幹事長をはじめ、多くの国会議員の方々や、我々と同様の目的を持つ各組織の代表の方々を来賓として迎え、会が進められました。 ③本人に直接会って話を

初めて参加して、この組織を作り上げ、ここまで育ててこられた多くの先輩方の努力に深い敬意と感謝の念を覚えました。そして、この組織を守り、さらに育てていくことの重要性を強く感じました。 今、福岡県では組織率は低下傾向です。「数は力」と言われているように組織率を高めていくことで「高齢者が生きがいを感じる」と言われているように「高齢者が生きがいを感じる」と言われているように「数」は力と

参加報告

日本退職公務員連盟 平成27年度 全国大会

遠賀中間支部

支部長 中葉 允雄

陳情活動や全国大会の内容の詳細は他に譲り、私は大会参加の雑感を述べたいと思います。

①大会基調提案に先立って、組織表彰が行われました。会員増の2県連と減少率2%未満の4県連が対象でした。これは各県とも会員増に努めているというところでしよう。先輩会員が訴え続けて、今の年金制度が維持されてきたことを考えれば、我々現会員が声を大にしてさらに訴え続けねばなりません。

そのためには会員増が緊急の課題だと思いました。

②大会記念講演(神崎宣武氏)では

「高度成長期以前の暮らしの立て方と語り伝える年齢にある我々が、しなやかで、やさしい社会を維持していくために過去にさかのぼって『忘れもの』はないか再考し、その語り部



【左から】筑紫北支部 北嶋 司朗支部長／小倉支部 岩谷 武利支部長 八女支部 樋口 順一郎支部長／県退公連 吉田 第三会長 東区支部 中嶋 英機支部長／遠賀中間支部 中葉 允雄支部長 県退公連 稲田 瑞徳事務局長

になりうる」という内容でした。退職後、地域活動に専念している私には新たな

退職公務員連盟と存在感

筑紫北支部 支部長 北嶋 司朗

福岡県退職公務員連盟の代表として、吉田会長以下7名は、10月20日(火)の午後4時「ホテルポール」に集合した。早速、翌日の陳情行動について打ち合わせ会をする。

21日、三原議員の秘書である中村氏から、議員会館内の各議員の事務所を順次案内していただいた。事務所では担当の代

表者が議員に口頭で説明をして、要望書を手渡した。鳩山議員からは要望書に関して質問が出るなど、どの事務所でもしっかりと陳情ができたと思う。

議員への陳情活動が終わり、続いて日比谷公会堂での「日公連全国大会」に出席した。会場は全国から集った千名の会員で

な価値を見出した思いです。退職後の活動、地域活動の共通点は「おたがいさま」の気持ちで生きることだと思つた次第です。

日公連第22回 研修会に参加して

八幡支部 支部長 村尾 稔



日本退職公務員連盟の第22回研修会に参加させていただきました。

研修は6月16日から18日まで「東京ガーデンパレス」で行われ、参加者は各都道府県からほぼ1名ずつ45名でした。

研修の目的は、本連盟創立の理念を踏まえ、その進むべき方向について研修し、連盟の基盤確立に資するということなので「組織の拡充・強化と活性化の方策について」が中心的テーマでした。

日公連の会員数は平成6年度(約37万人)をピークに20年間減り続けています(平成26年度約22万人)。しかし、こうした中であつて愛知、山形、沖縄の3県は平成26年度

会員増を達成しています。特に、愛知は30年間一度も減らすことなく会員増を続けてきています。それはどんな努力がなされ英知が発揮されてきたのか報告を受け、学び合ったことでした。また、原発事故で、会員が全国にちりぢりになったにも関わらず会員を多く維持し続けてきた福島県双葉支部の報告は感動を呼ぶものでした。

様々あつた報告の中で、会員増を促進し、会員減を減らすために、取り組まれていることで、最も注目させられたことは、支部長など会のリーダーの熱意と行動力でした。会員増を果した県だけでなく、参加していた支部長や組織部長・女性部長などの熱意ある実践報告はその通りだとなつてきました。

また、それぞれの地域の実情や人間関係に即しながら組織を挙げて取り組んでいることなども印象深い報告でした。人間的なつながりを生かすことはもちろん、面識はなくともチームを組んで一人ひとりの退職者に向かうなどの方策で会員増を果たし、会の重要な役に様々な職種の方に就いてもらうこ

とで、その職種の新会員を多く獲得することに成功したなど、組織を挙げて取り組むことの強みを知らされました。

また、今一つ会員獲得のために取り組まれていることで感心させられたことは、魅力ある入会案内としての「退公連のしおり」でした。コンパクトに退公連の歴史や役割などを伝えるとともに活動内容をカラー写真入りで楽しく伝えていくものなど、大変参考になりました。

また今日、社会貢献活動の充実を力注いでいる事例を多く知ることができたのですが、このことは、退公連の存在意義を広く知ってもらうことになるとともに、退公連の魅力を高め、会への参加意識を高める上でも有効であることに気づかされました。

今日、年金問題は全国民的な重要課題です。私たち退公連は、私たちの立場や主張をしっかりと示しつつも、現役世代や若い子どもたちの将来をも考えてこの問題に英知をもつて取り組まなければならぬことに改めて気づかされた有意義な3日間の研修でした。